

「ばれんたいん・すとーん」をさがせ！

オリジナルバージョン

登場人物

ゴン 少年ゴンスケ
男 遊び人のウタさん
少女 行き倒れの少女

お嬢 悪人お嬢
くノ1 女忍者くノ一
くノ2 女忍者くノ二

長老 妖怪の長老
ヨウ 妖精のヨウ
セイ 妖精のセイ

山姥 やまんば
山姥のウメさん

小山姥 こやまんば
光をつかさどる物の怪

踊る物の怪たち もののけ

戦国時代の頃、山深い森の中

第一場 森の朝

1 物の怪たちの森

時代は日本の中世、戦国時代の末期ごろだろうか。南蛮人たちが新しいものを次々と持ち込み、世の中がものすごい勢いで変わっている時代である。新しいものはつねに新しい。……とは限らない。形をかえてしたたかに生きてゆくものたちだっているわけだ。

深山幽谷。しんざんゆうこく、ようするに山奥の森の中。

夜の静寂をぬって、鳥や獣や虫たちの静かなざわめき。フクロウの鳴き声がフオーフオーと響きわたる。時折それが「フオーフオー、フェーブラリ」と叫ぶように聞こえると、とても2月にふさわしい。

明かりに目が慣れてくると、あちこちで物の怪たちがうごめいているのが感じられる。

森の中に音楽が、しみるように拡がってゆく。あちらこちらから陽気な物の怪が集まってくる。

そして突然の

オーブニングダンスタイム

朝の気配を感じる頃、ダンスタイムは終わる。

夜明け前。長老の声。

長老 夜明けだ。これにて宴はお開きに。くれぐれも人間には気をつけろよ。

ヨウ・セイ・長老を残し、全員消えるように退場。

ヨウ ねえカイチョウ、そのバレンタイン・ストーンが人間に狙われると、どうなるんですか？

長老 それは、恐ろしいことが起こる……。

セイ いったい、どんな？

長老 それはな……、ううっ（いきなり倒れる）……と、ここで私が死んでしまつてはこの話は終わってしまう（と立ち直る）

ヨウ 大丈夫ですか、カイチョウ。

長老 何の話だったかな。

セイ なぜ、人間から守らなくてはならないのですか？

長老 何をだ？

セイ あれを。
長老 あれ？
セイ バレンタイン・ストーン。
長老 おお。実はあれには、言い伝えがある……！
ヨウ・セイ ！（息をのんで聞き入る）
長老 私たちは、あれを守らなければならない、と。

やや間。

ヨウ ……それで？
セイ 人間に狙われるとどうなるの？
長老 恐ろしいことが起こる……。
ヨウ どうな？
長老 言い伝えにあるようなことが……。
セイ なんて言い伝えられているの？
長老 私たちは、あれを守らなければならない、と。
ヨウ あのねえ、カイチョウ。
長老 ふむ。
ヨウ 恐ろしいことって何？
長老 言い伝えにあるような……

ヨウ・セイ、いきなり長老を殴る。ポカリッ。

長老 いてっ。
セイ なんて言い伝えられているの？
長老 私たちは、あれを……。 （殺気に気づいて）しかたがないだろ、それだけしか伝えられてないんだから。わしら妖怪はだなあ……
ヨウ 待つてよ。この中で妖怪はあなただけ。私たちは妖精よ。
長老 それは男性名詞と女性名詞の違いだな？
セイ あーら、見た目の違いだと思うけど。
ヨウ 話を続けて。
長老 いいかい、妖精のヨウちゃん、セイちゃん。わしら妖怪や妖精に、あれがどんなものであるか説明できるのは、おそらく山奥の庵いおで暮らしている山姥やまんばのウメさ
セイ ンだけだ。
ヨウ じゃ、直接聞いてみるか。
長老 そうしよ、そうしよ。
セイ ウメさんはとても恐ろしいぞ。
長老 え？本当？

ヨウ どうして？

長老 山姥のウメさんは、わしの過去を知っていて逆らえないのだ。

セイ それはプライベートな問題でしょ。

長老 恐ろしいことには違いがない。

ヨウ まあね。山姥と言えば恐ろしいものだけだ。

長老 そうだ、しかたがないのだ。

セイ すると何、この物語は妖精妖怪の姿を借りながら、日々日常の不満やストレスを、しかたがない、しかたがないと、「しかたがない」の一言に託して耐えるしかない、人生の悲哀が語られていくんですか？

ヨウ そうよ。理由もわからず、ただ、バレンタイン・ストーンを守ることだけに青春を浪費してゆく、かわいそうな乙女たちの物語よ。

長老 そうではない。バレンタイン・ストーンは、私たちのために守られるのだ。

ヨウ だまされないわよ。私たちのために守る、みんなのために守る、お国のために守る、世界のために守る、なんてだんだんエスカレートしていくことになるんじゃない。私たちは美しく花と散ってゆくんだわ……。

セイ 私って、かわいそう……。

長老 そうではない。

ヨウ・セイ では、きちんと説明してください、カイチヨウ。

長老 待て。さつきから気になっていたんだが、なんだ、その「カイチヨウ」というのは。

ヨウ やあねえ。妖怪の長老だから、怪・長かい ちやうでしよ。

セイ あつ、そうかあ。

長老 そういう呼び方は、わしの好みではない。

セイ そうよね。妖怪の長老ならば、妖・老よう ろうの方がいいわよ。ね、ヨウロウ。

長老 そうではない。

3 人 おや？

ヨウ・セイ (匂いを嗅ぐ) クンクンクン。

セイ 人間がこの森に入り込んでいる。

ヨウ バレンタイン・ストーンが目当てね。

セイ 急ぎましょう。

ヨウ・セイ、消えるように退場。

長老 バレンタイン・ストーン、それが何かも知らぬまま、人間はこの森にやってくる……。

妖怪、消えるように退場。

夜明け頃。

お嬢登場。山道を歩いてゆく。

くノ1・くノ2登場。高みの位置からお嬢を見守る。

お嬢退場。追うようにして、くノ1・くノ2退場。

2 ゴンスケとウタさん

朝。

男、寒そうにヒョイヒョイと走りこんでくる。

すぐあとから、少年ゴンスケが元気に飛び込んでくる。

男 ゴン
どっちだろう？
こっちだ！（下手を指さす）

ゴン、言われた方向へ走ってゆく。

男は上手へ行こうとする。

男 ゴン
（それに気づいて）ちよっと待て！
なんだよ。
こっちだ、って言わなかったか？
言ったよ。
なんで、そっちに行くんだ。
え？ こっちに来たかったのか？
う、：・うん。
そうか。じゃあ、こっちに来い。

ゴン、男のいる上手の方へ走ってゆく。

男、さりげなくすれ違って、下手の方へ行こうとする。

ゴン、それに気づき、向きをかえて男のあとをついてゆく。

男 ゴン
なんでついてくるんだよ。
なんで逃げるんだよ。
お前がついてくるからだ。どうしてついてくるんだ？
お前が逃げるからだ。なんで逃げるんだよ。
お前がついてくるからだ。どうしてついてくるんだ？ お前が逃げるからだ
ろ。ついてくるからだ。逃げるからだ。ついてくるからだ。逃げるからだ

男 ゴン
ろ：…って、きりがねえなあ。(ゴンに) おもしろいか？
(しゃがんで見ている) うん。
そうか。それじゃ、そういうことで。

ゴン、男の脚にしがみつく。

男 ゴン
離せよ。

男 ゴン
やだ。

男 ゴン
離せ！

男 ゴン
一緒に連れてつてくれなきゃ、やだ。

男 ゴン
(突然) あっ、おいしそうな饅頭まんじゅう！

男 ゴン
(思わず手を離して) えっ、どこどこ。

男 ゴン
しょせんは子どもだな。

男 ゴン
(突然) あっ、ものすごい美人！

男 ゴン
(思わず振り返って) えっ、どこどこ。

ゴン、すかさずしがみつく。

男 ゴン
しまった…。同じ手を使うとは卑怯な奴。
連れてつとくれよ。

男 ゴン
俺はお前と何の縁もないんだぞ。

男 ゴン
森の中の、子どもの一人歩きは危険なんだよー。

男 ゴン
こんな森に何しに来たんだよ。

男 ゴン
え？ い、いや。

男 ゴン
それが言えないようじゃ、連れてはいかれないな。

男 ゴン
(しかたなく) お宝だよ。この山奥にあるという不思議な代物しろもの。都で噂のバレン

男 ゴン
タイン・ストーンってやつを探しにさ。

男 ゴン
(つぶやくように) やっぱりな。

男 ゴン
え？

男 ゴン
いいや。それで何のために？

男 ゴン
もちろん、金さ。都に持っていけばいっぺんに大金持ちになれる、それ一個見つけるだけで。そうすれば、何でもできるじゃないか。たとえば、饅頭を腹いっぱい食べるとか、腹いっぱい饅頭を食べるとか、饅頭を食べて腹いっぱいになるとか…。

男 ゴン
(さえぎって) だが、誰もまだそいつを見たことがない。
ん？

男

言い伝えなんだよ、そのバンタラリン・スットンとかいうのは。どんなものだから誰も知らない。スットンは南蛮人の言葉で石のことだそうだが、もしかすると、少しも珍しくないそのへんの石かもしれない。イチカバチかだ。

ゴン

(本気で) そいつはすごいや。珍しい石か、つまらない石か、イチカバチか。それだけでもワクワクしちゃう。

男

お前が欲しいのは、そのワクワクじゃないのか。

ゴン

ぼ、僕が欲しいのはお金だ。大金持ちになるんだ！

男

どっちにしろ、俺についてくるのは見当違いだ。あいにく石には興味はない。

ゴン

ほおー。じゃあ、この森で何してるんだ？ 女でも捜してるのか？ 「いやあ、

男

ちよつとね、バレンタイン・ストーンを探しにね。森の物の怪もストーン探しの

男

荒くれ者たちも、俺にかかっちゃまるで赤ん坊だ。この傷かい？ ただのかすり

男

傷だけ、ベイビー。俺を本当に怖がらせることができるのは、女の愛、つてやつ

男

ただだけ」なんてセリフを言いたいために、命かけてまで、この森で物の

男

怪たちと戦おうつてのか？ 男だねえ、この色男！ (パシッと叩く)

男

お前、何考えてんだよ。

男

いろんなこと。

男

俺は女には興味はない。

男

つてことは下着には興味があるのか？ 下着泥棒だな！ みなさーん、ここに下

男

着泥棒がいますよー。(とやかましい)

男

そうじゃなくてな、ボウズ。

男

ボウズじゃないもん。名前があるもん。

男

ほお、なんて名前だ？

男

僕は、……。いいよ。

男

なんて名前だよ。

男

ヒミツだ。

男

ヒミツ、つていうのか。珍しい名前だな。

男

違う！

男

それが苗字みょうじか？ チガウ・ヒミツくんか。

男

そうじゃなくて……。

男

お、ミドルネームまであるのか。だけどな、チガウ・ソウジヤナクテ・ヒミツく

男

ん。ヤマト民族にはミドルネームは、似合わないと思うよ。

男

本当の名前は、チガウ・ソウジヤナクテ・アッシー・イツシー・ウッシー・メッ

男

シークイタイナ・ヒミツ3世だ。

男

なんだ、そのヤマト民族らしくない名前は？

男

この世の栄華を一人占めた、アラビアンナイト・ペルシア王朝まつえいの末裔だ。

男

本当か？！

男

(あっさり) 嘘だよん。

男

嘘だよん。

男
ゴン

?!——本当は、なんて名前なんだ？
言わない。

男
ゴン

なんでだよ。わかった、はずかしい名前なんだろ。たとえばポチとかミケとか、それとも（ピー——ツ）とか（ピー——ツ）とか（ピッピッピッ）いかに、放送禁止用語だ。ペン太だとか、ゴンスケだとか……。

男
ゴン

（ボソっと）それ。

男
ゴン

へ？

男
ゴン

当たり。

男
ゴン

ゴンスケっていうの？ あ、そう……。で、でも気にすることないよ。べつにはずかしい名前じゃないよ、ゴンスケなんて。

男
ゴン

はずかしいよ。ゴンスケだもん。

男
ゴン

男、あわててとりつくろうように正面に出てくる。

男

ただいま、全国のゴンスケさんに対し、失礼な表現がありましたこと、深くおわび申しあげます。

男

男、礼をする。

男

（ゴンに）まあ、気にするなよ、ゴンスケ。実はなゴンスケ、俺もさゴンスケ、それほど自慢できるようなゴンスケ、名前じゃゴンスケ、えー、ゴンスケゴンスケゴンスケ。結構おもしろいな。
遊ぶな！

男
ゴン

いや。俺の名前だって笑っちゃうぜ。遊び人のウタさんっていうんだ。

男
ゴン

かっこいい……

男
ゴン

そうか？ かっこいいか？

男
ゴン

だから、一緒に連れてってくれ。

男
ゴン

子連れの遊び人なんか、いないんだよ。

男
ゴン

そうだ、僕、ウタさんの子分になる。

男
ゴン

俺は、自分は持たない主義だ。

男
ゴン

それなら僕が、親分になる。

男
ゴン

バカヤロ。だいたいウタさんなっていうのは、そもそも……

男
ゴン

わ————（とさえぎる）

男
ゴン

……な奴が……

男
ゴン

わ————（とさえぎる）

男
ゴン

……するような名前だぜ。

ゴン、あわててとりつくろうように正面に出てくる。

ゴン　ただいま、全国のウタさんに対し、失礼な表現がありましたこと、深くおわび申しあ……。

男、知らん顔で退場してしまう。

ゴン、あわてて追いかけるが間に合わない。

ゴン　ウタさん、ウタさーん！（戻ってきておもむろに）ウタさんっ！　僕には美人の

姉ねえさんがいるっ！

男、急に戻ってくる。

男　なになに？　もう一度言っつて？

ゴン　言わない。

男　またまたあ、ゴンちゃんたら。

ゴン　ぼ・く・に・は・び……、一緒に連れてってくれる？

男　（少し考えて）やめた。（去りかける）

ゴン　（似顔絵を出して）いつ見ても美人だなあ、僕の姉さん。

男　どれどれ。

ゴン　（隠して）連れてってくれる？

男　ちよっただけ見せて。

ゴン　色白だよ。（チラッと見せる）

男　おーっ。

ゴン　僕を連れてってくれれば、姉さんの似顔絵は、ウタさんのものだった！

男　（思わずつられて）連れてってやろう！

ゴン　約束だよ。

男　男に二言にふたごはない。

ゴン、男に似顔絵を渡す。開いてみるとただの白紙である。

男　なんだ、これは！　白紙はくしじゃねえか。

ゴン　色白でしょ。

男、ムツとして去りかける。

男　連れてってくれるって、約束したろ。

ゴン　お前だって、嘘ついたじゃないか。

ゴン 僕は嘘はつくけど、約束はちゃんと守る！
男 …… チェッ、勝手にしろ！

男、ヒヨイヒヨイと退場。

ゴン (してやっつたりの笑顔で) 勝手にしてやらあ！

ゴン、あとを追って元気に退場する。

森の中。

ヨウ・セイ、それぞれに現れる。
それぞれに森の奥に消えてゆく。

3 三人娘の野望

昼頃。だが、森の中は薄暗い。

お嬢、姿を現す。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ一、くノ一はいますか？

女忍者くノ一登場。トンボを切って登場するとかっこいいが無理はしなくていい。

くノ一 はいっ、ここに。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ二、くノ二はいますか？

女忍者くノ二登場。煙の中から現れると忍者っぽいがそこまでする必要はない。

くノ二 はいっ、ここに。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ三、くノ三はいますか？

女忍者くノ三なんていないよ。くノ一・くノ二あわてる。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ三。(気づいて) あ、二人しかいないんだっけ。

くノ一・くノ二、コケる。

お嬢 今回の目標は、バレンタイン・ストーンよ。
3人 (手を合わせて) ファイトOh! ファイトOh! ファイトOh!
お嬢 (くノ1に) では健闘を祈るわ。頑張ってるね。(握手をする)
くノ1 はい。(くノ2に) では健闘を祈るわ。頑張ってるね。(握手をする)
くノ2 はい。(くノ3に) では健闘を祈るわ(くノ3はいないよ) って、祈られたのは私ですか?
お嬢 そうよ。
くノ1 そうよ。
くノ2 私、何をするんですか?
お嬢 バレンタイン・ストーンを手に入れるのよ。
くノ1 手に入れるのよ。
くノ2 何ですか、それ?
お嬢 あなた、都で噂のバレンタイン・ストーンを知らないの?
くノ2 はい。
お嬢 もういいわ。(くノ1に) あなた、頼むわよ。
くノ1 は? 何を?
お嬢 バレンタイン・ストーンを手に入れるのよ。
くノ1 何ですか、それ?
お嬢 あなたも知らないの?
くノ1 はあ。
お嬢 あきれた。
くノ1 お嬢様はご存知なんですか?
お嬢 もちろんよ。
くノ1 ・くノ2 ご健闘をお祈りいたします。(去ろうとする)
お嬢 (駄々をこねるように) 3人でえ頑張りましょうよお。
くノ1 ・くノ2 はいはい:。
くノ2 それで、何なんですか、バレンタイン・ストーンって。
くノ1 そもそも、バレンタインの説明をしていただかないと。
くノ2 そうよね。この時代にはチョコレートだって、まだないんだから。
お嬢 :・あのね、いろいろと秘密があって、あの人だけにはどうしても知られたくないの。
くノ1 それは、バレたらたいへん、でしょ。聞いているのはバレンタイン。
お嬢 :・7本、:・8本、:・9本、あつ、たしかに10本あったはずなのに赤いバラが1本足りないっ。
くノ1 それは、バラが足らん。

物の怪たち、姿を現し、のぞいている。

お嬢 ここに1本あったわ。私の熱い想いを、ここに燃やしてみせる。(バラを口に
くノ1 わえる)オーレ!(フラメンコのポーズ)
それは、カルメンでしょ。

カルメンの曲が流れる。お嬢、踊る。

くノ1 本質から離れていくような気がする……。

お嬢、踊りながら下手へ退場。くノ2、ついて行きかける。

くノ1 ハメルーンの笛吹きじゃないんだから。

くノ2 (戻ってきて) どこまで行っちゃったんでしょうね。

お嬢、上手から登場。

お嬢 NOと言えるニッポン。ハメルーンの笛の音にだまってついて行くようでは情け
ない。カルメンのように自分の愛を信じ、「イエス」と言えないものは切り捨て
なさい、というのが、バテレンの信じるイエス・キリストの教えよ。バテレン
は、愛とは意志の力であると信じている。バテレンの愛の意志、バテレンの愛の
石、バテレン・愛・ストーン、バテレンアイ・ストーンがなまって、私たちが探
しているのは、それなのよ。(客席に)急な展開だったけど、これは大事な伏線
だからよく覚えておいてね。
思いつきにしては完璧ですね。

お嬢 (くノ1を叩いて)ぶつよ。

くノ1 ぶつてから言わないでよ……。

お嬢 それでは本日はこれまで。さらばよ。

お嬢・くノ1・くノ2、後ろを向く。

物の怪たち、拍手。

お嬢 と、このまま去ってしまったては、何のためにアイドルの振りつけまで覚えたのか
くノ1 わからないわ。くノ1・くノ2。

くノ1・くノ2 はいっ。

お嬢 お客様からお代を。

3人振り返ると、黒いサングラスをかけている。くノ1・くノ2、物の怪
たちを脅して見物料をとりたてる。物の怪たち、ブツブツ言いながら消え
る。と、セイ逃げて退場。くノ2、追って退場。
くノ1、お嬢に上がりを持って行く。

お嬢 あんまり儲からなかったわね。
くノ1 お嬢様の芸もパワーが落ちましたからね。
お嬢 (くノ1を叩いて) ぶつよ。
くノ1 もうぶってるじゃない……。

くノ2、セイを連れて登場。

くノ2 お嬢様、こいつです。
セイ ごめんなさい。もうしません。
お嬢 タダ見しようなんて、ふてえ野郎だわ。
セイ 何でもします。ともかく離して。
くノ2 離したら逃げるでしょ。
セイ 逃げません。約束します。
くノ2 本当ね。じゃ話すわよ。昔々、ある男が鶴を助けたの。その鶴は恩返しをしましたとき。めでたしめでたし。終わったわ。
セイ お話してほしいんじゃないかと、手を離してほしいの。
くノ2 わかってるわよ。はい。(セイを放す)
セイ (態度を変えて) へへん。ベーツ。バイバーイ。

と逃げようとして、くノ1につかまってしまふ。

くノ1 やっぱりね。いい度胸してるじゃないの。
セイ (態度を変えて) ごめんなさい。もうしません。
くノ2 そんなこと信じると思う？
セイ タダ見じゃないんです。偶然通りかかったんです。
くノ1 偶然？ こんな山奥で。
お嬢 どこに行こうとしていたの？
セイ えーと。バレンタイン・ストーンを探している、にんげ……
3人 バレンタイン・ストーン?!
お嬢 あなた、それはどういう石なの？
くノ2 (くノ1に) やっぱり知らなかったんだ。
お嬢 (くノ2を叩いて) ぶつよ。
くノ2 もうぶってるくせに……。
セイ あなたたち、バレンタイン・ストーンを探しているの!? ……ですか？
お嬢 ホホホ、まさか、あんなもの。これはあんたを試しているのよ。あなたが本当のことを言っているのか、ただ言い逃れようとしているのか。ちゃんと答えられたら許してあげましょう。
セイ (緊張して) バレンタイン・ストーンを持っているのは、海を越えてやってきた

もので、琥珀色こはくいろをしていて、とても不思議な力があって……。人間に狙われるとたいへんなことになるって言うんだけど、詳しいことは山姥のウメさんに聞かないと……。
お嬢 山姥のウメさんが持っているのね。
セイ 秘密を持っているんです。

お嬢、セイの目を見据える。

お嬢 (ニツコリして) いいわ、合格よ。さあ、もうこんなところで、悪い人たちにかまるんじゃないのよ。たまたま私がいたからいいようなものの、いつもこうして無事にすむとは限らないんだからね。(くノ1に)手を離してやりな。

くノ1 いいんですか？

お嬢 いいから離してやりなよ。(セイに)いいかい。一寸の虫にも五分の魂と言うわ。ツルだってカメだって、ミミズだってオケラだってアメンボだって、みんなみんな助けてもらえば恩返しするのよ。(自分で感動しホロリとしながら)執念深いネコでさえ、3日もたてば飼い主の恩を忘れると言うじゃない。

くノ1・くノ2 (あわてて)それは違います、それは。

お嬢 ……。芝居と乞食は3日やったらやめられない、と言うわ。

くノ1・くノ2 (あわてて)話がそれてます、話が。

お嬢 ……。(セイに)べつに恩返ししなさい、って言ってるわけじゃないの。でも、恩を忘れるような子は人間じゃないわ。それだけよ。(ドスをきかせて)いいわねっ。

セイ は、はい……。

くノ1 ほら、行きな。これからは真人間になるのよ。

くノ1、セイを放す。

くノ2 恩返しするのよ。

セイ あ、ありがとうございます。

セイ、うれしそうに退場。

お嬢 どう？ これでバレンタイン・ストーンの特徴がわかったわね。

くノ1・くノ2 さすが、お嬢様。

お嬢 あとはあの子のあとをつけて、バレンタイン・ストーンを見つけたところで、横取りすればいいのよ。

くノ1・くノ2 さすが、大悪人。

お嬢 都で恐れられてきた

くノ1 … 都落ちで忘れられてきた
お嬢 財宝盗賊団

くノ2 … しゃんはいざつぎだん上海雑技団

お嬢 カルメン3人娘の名にかけても

3人 バレンタイン・ストーンを手に入れるのよ。

お嬢 さあ、行きましょう。あの子を見失わないうちに。

くノ1・くノ2 はいっ。

くノ1を先頭に、3人去りかける。

くノ1、あわてて戻ってくる。

くノ1 … もう、見失ってしまいました。

お嬢 (駄々をこねるように) まぬけえ。

3人退場。

第二場 森の昼

1 小山姥のひかる

小山姥、音楽に乗って花道（調光室）から登場。

その姿は、金・銀・黒・赤の派手な衣装である。

ステージで、物の怪たちとのミニダンスタイム。

ヨウ現れる。小山姥の踊りをしげしげと見ている。

ヨウ （おそるおそる）すみません。バレンタイン・ストーンのお秘密を教えてください。
たいんですけど。

小山姥？

ヨウ 人間に狙われると恐ろしいことが起こる、つて。

小山姥 ああ。それは私じゃないわ。山姥のウメさんにお聞きなさい。

ヨウ え？ では、あなたは？

小山姥 ごらんとおりよ。

ヨウ …… 演歌の女王！

小山姥 違う！

ヨウ …… 有閑マダム！

小山姥 違う！

…… 財宝探しの七人の小人！

2 人 （歌う） ザイホー、ザイホー、お金が好き〜 （7人の小人の節で）

小山姥 違う！ このキラキラ光る衣装を見て、わからない？

ヨウ キラキラ光る衣装を見たから、わからない。

小山姥 金色は太陽の光、銀色は月の光、黒は漆黒しつこくの闇。さて、私は誰？

ヨウ 派手好きなおばさん。

小山姥 お姉さん（と、とりあえず指摘する）。さて、第二ヒント。私には、こんなこともできるのよ。（調光室に）はい10番あげてー（自分にライトがあたる）はい、まわりさげてー（自分だけ残る）はいマスターさげてー。

結果的に暗転あんてん。暗いよー。

ヨウ わかった。照明スタッフのお姉さん。

小山姥 惜しい。私はこの森で、光と闇をつかさどっているの。小山姥のひかる、と覚えてちょうだい。

ヨウ コヤマさんとこのウバさん、ですか？

小山姥 あんた、わざと間違えてるでしょう。小さい山姥で、こやまんば。ヨウ

小山姥 (懐中電灯をつけて) さてと、踊りも踊ったし、仕事に戻るか。

小山姥、花道を去りかける。

小山姥

(立ち止まり) 私たちに、恐ろしいことはもう起こり始めている。人間がこの森に入りこんでいるのだから。

小山姥消える。ヨウ、暗闇の中を退場。

山姥、高みに姿を現す。

望遠鏡で森の様子を見渡したあと、一面に妖術をかける。

山姥、退場。

2 行き倒れの少女

たそがれ
黄昏。

男登場。舞台を横切って退場する。

ゴン、遅れて登場。後を追うようにして退場。

少女登場。高みから、2人のその様子を見ている。

男、違う場所から登場。道に迷っているようだ。

男 なんだ？ 急に霧が濃くなってきやがった。なあ、ゴン……。 (気づいて) ゴン！ ゴン！

男、探しながら退場。

ゴン、別のところから登場。男と完全にはぐれている。

ゴン ウタさん、ウタさん！

ゴン、追いかけて退場。

少女、少し考えて、ゴンを追って退場する。

ゴン・少女、すぐ現れる。

ゴン、気配に気づいて、ゆっくりと左・右を振り返る。が、少女はうまく死角にまわりこみ、見つからない。

ゴン、もう一度振り返る。少女は見つかってしまうが、何かのポーズをとってゴマかす。

ゴン、もう一度すばやく振り返ると、不意をつかれて少女は目を合わせてしまう。少女、あわてて死んだふりをする。

ゴン
(あっけにとられている) ……！ ウタさーん、ウタさーん！

少女、起きようとするが、人の気配を感じて起きられない。

お嬢・くノ1・くノ2 (カルメン3人娘) 登場。変装をしている。

くノ2
お嬢様。何ですか、これ？

くノ1
この森にバレンタイン・ストーンを捜しに来ているのは、私たちだけじゃないのよ。

くノ2
それで、この変装なの？

お嬢
これなら、いざという時にも印籠いんろう一つで全てを有利に展開できるわ。正義の味方のふりをして、お宝を手に入れようってわけよ。

くノ2
これって何の格好ですか？
知らないの？

くノ1
3人でこのスタイルと言えば、決まってるでしょ。

くノ2
3人と言えば、…3匹のコブタ、…ヨツちゃんちの3つ子、…三面鏡、…システムキッチン3点セット？！

お嬢・くノ1、くノ2をポカリと殴る。

くノ2
わかった。(お嬢を指して) 大家さん。おおや

お嬢
(くノ1を指して) 熊さん。

くノ1
(くノ2を指して) 八つつあん。

くノ2
やだー。八つつあんはやだー。(じたばたして泣く)

お嬢
大喜利おおぎりやってる場合じゃないのよ。(くノ1に) あなたは助子。すけ(くノ2に) あ

あなたは格かく子。そして、私は一一。

くノ1
越後のちりめん問屋の娘、みつえもん子様よ。

くノ2
そして、その正体は？

お嬢
將軍家ゆかりの水戸藩の隠居の娘よ。

くノ2
あのー、今、この時代設定は一応、戦国時代なんですよね。それって、今より200年ぐらいあとの話になっちゃいませんか？

お嬢・くノ1

……。

霧がますます深くなってゆく。

くノ1 すごい霧ね。(少女を見つける) おや? これはホトケさんですよ……。

お嬢 お待ち!

くノ1 妙ないでたちですね。何者でしょう。

お嬢 へたにかかわるとあとで面倒だわ。こんな山奥なら、放っておいても誰にも気づかれない。そうつと、そうつと……。

くノ1・くノ2 行きましよ、行きましよ。

3人娘、少女を横目で見ながら去りかける。

と、ゴンが飛びこんでくる。目が合ってしまう。

【課題】

〈3人娘のみなさんはなんとか軽いギャグでこの場を切り抜けてください。い。(以下は初演の例です)〉

お嬢 (バラの花を差し出して) カルメーン! (花をくノ1に渡し走り去る)

くノ1 (バラの花を差し出して) カルメーン! (花をくノ2に渡し走り去る)

くノ2 (バラの花を差し出して) ……。(そのまま走り去る)

3人娘退場。ゴン、不思議そうに見送る。

男、登場。

男 ギン。よかった、ここにいたか。

ゴン 僕のこと、心配してくれたの?

男 冗談じゃねえ。のたれ死にでもされたら夢見ゆめみが悪いからな。とにかくこの霧じ

や、へたに動くと道に迷うだけだ。ここで野宿になりそうだな。(野宿の支度を始める)

ゴン うん。そうだ、そこにへんなものが落ちてる。

男 へんなもの?(見に行く) って、これは行き倒れたおじゃねえか!

ゴン イキダオレって、へんじゃないのか?

男 へんだよ。(少女をピタピタ叩いて) 大丈夫だ。生きてるみたいだ。

ゴン これって人間みたいだね。気がつかなかったなあ。

男 人間だよ。気がつくだろう、普通。

ゴン 天女てんにょかと思っちゃった、あんまり美しいから。

男

(あつさり否定して) 思わない思わない。

少女、むっくり起き上がった、男を叩く。ペシッ。倒れる。

男、叩かれてキョロキョロする。

ゴ

(少女を助け起こして) おい、しっかりしろ！

少

うーん……。

ゴ

あつ、気がついた。

少

えーん……。 (ゴンに抱きついて泣く)

ゴ

泣いてちゃわからないよ。(少女を押しはなす)

男

おい。どうしたってんだ。

少

……。(そっぽを向き、しくしく泣く)

男

ははあ……、わかった。お前、俺に惚れたな。(と肩に手をかける)

少女、男に平手打ち。パシッ！

男

何しやがる！ 気の強え女だな。

少

フンッ！

男

元気になったんなら行っちまいな。

少

えーん。(泣く)

ゴ

どこから来たんだ、あんた。

少

……あのね(つい気になって) ねえ、あんた誕生日は？

ゴ

あるよ。

少

えーん。そうじゃないのに。

ゴ

2月7日だよ。ところで、どこから来たんだ？

少

……あのね(また、気になって) 血液型は？

ゴ

……。

少

えーん。

ゴ

O型だよ。どこから来たの？

少

……私ね(悪気はないけど、気になって) 星占いは何座？

四緑木星。
しろくもくせい

ゴ

？ 何それ？

少

中国の占いだよ。

ゴ

どうして、私の質問に真面目に答えてくれないの？

少

どこから来たんだ！

ゴ

えーん……。

男、野宿の支度がうまく行かず、片づける。

男　　ゴン、場所をかえるぞ。

男、歩き始める。ゴン、ついてゆく。
少女も同じようについてゆく。

男　　（少女に）なんでお前までついてくるんだよ。
少女　えーん……。

男　　なるほど、そういうことか。お前、ホントは俺に惚れてるな。（肩に手をかける）

少女、男に平手打ち。パシッ！

男　　お前なあ……。 （と詰め寄る）

くノ1・くノ2、登場。

くノ1・くノ2　お待ちっ、女の敵！　えいっ！（忍術で男を倒す）
男　　何だ、何なんだ。

男、袋叩きにされる。お嬢、登場。

お嬢　　そのくらいでいいでしょう。

くノ1・くノ2、やめる。

お嬢　　これに懲りて、もう悪さをするのではありませんよ。

男　　誰がだよ。

お嬢　　は？

男　　誰が悪さをしたんだよ？

お嬢　　おや、まだわからない。やっておしまい。

くノ1・くノ2　えい！

くノ1・くノ2、忍術で男を倒し、袋叩きにする。おもしろそうだから、
全員参加しよう。

男 わかった。悪かった。すみません。
ゴン (お嬢の赤いバラに気がつき) あーっ。さっきの「カルメーン！」の人たちですね。

全員、袋叩きをやめる。

くノ2 (平気で) そうよ。

お嬢・くノ1 ……！

くノ2 私たちは本当は、正義の使者なの。その正体は、越後のちりめん問屋の娘さんよ。

ゴン でも、そんな娘さんがどうして、こんな夜更けに山奥にいるんですか？

お嬢 へんかしら。

ゴン 普通はちゃんとした宿に泊まるでしょう。しかも、女の旅なんだから。

お嬢 ちよっと失礼。(くノ1に) 変装したおかげで、かえって怪しまれているみたいよ。

くノ1 おまかせを。(ゴンに) 私たちは、ボランティアでガールスカウトをしている、ちりめん問屋なの。今夜はここでキャンプの訓練なのよ。ガールスカウトっていうのはね、ガールをスカウトする、つまり女性を勧誘する人のことね。

くノ1 ……言われてみると、似てるわね。

ゴン 女の敵だ！

全員、くノ1を袋叩きにする。男が参加しようと駆けつけた時には、終わっている。チェツ。

男 で、そのガールスカウトが子どもたちに何の用かな。
お嬢 率直に言うわ。私たち正義の使者が、あなたたちを目的地まで守ってあげようというわけよ。

くノ1 これはボランティアよ。

くノ2 お礼めあてじゃないのよ。

お嬢 (ゴンに) どう？

くノ2 あなたたちの目的地はどこ？ 何を求めに行くの？

ゴン 今求めているのは、夕ごはん。

くノ1 日常生活から離れたところでは？

ゴン フルコースのディナー。

くノ2 食べ物じゃなくて、求めているものがあるわけでしょ。夢を追ってきたわけでしょ。その夢をかなえるものと言えば？

ゴン マクラ。

くノ1 マクラじゃないだろ。

ゴン

いつもの使い慣れた、マクラ。

男

ハハハ。無理だ無理だ。トボけてるのか、本気なのかわからねえが、そいつが本
当に欲しいのは、あんたたちが言わせようとしているバンタラリンストーンなん
かじゃねえ。そいつはな――

お嬢

バンタラリンストーンって何？

くノ1

何か違いますよね。

くノ2

そんな情けない名前じゃないわよね。

ゴン

バンタイン・ストーンのこと？

お嬢

それよ。

3人娘

バンタイン・ストーン！

くノ1

あなたたちがバンタイン・ストーンを見つけたら、私たちが守ってあげる
わ。

ゴン

いいよ。

くノ2

遠慮することないのよ。

ゴン

僕、ウタさんと3人でさがすから、いいよ。

くノ1・くノ2

ダメなの！

男

ハハハ。だから言ったろう。そいつはな、バンタラリンストーンなんかより饅頭

の方が欲しいのさ。饅頭は食えるが、石は腹の足しにならねえ。

お嬢

しかし、金があれば饅頭はいくらでも買える。その石は高く売れるわ。

男

それが本音か。相変わらず、一途だねえ。……。

男、ゆつくりと刀を抜く。みんなドツキりする。

男

こいつは、妖怪さえ斬ることのできるという、妖斬剣ようざんけんという刀だ。見てな。

空間を切り取ると、そこだけ霧が晴れて、一瞬の間、月の光が射し込む。
キラーンッ。

男

外は満月だ。(光消える)この霧は妖術でつくられたものだ、俺たち人間を惑まど
すためにな。それどころじゃない。この森は物の怪の森、いつとって食われてし
まうか知れたもんじゃねえ。命賭けてまで、あるかないかもわからないバンタラ
リンストーンを、金のためだけに探しに行こうたあ、一途だねえ。

お嬢

うるさいっ。くノ1・くノ2、行くわよ。野宿なんかして、物の怪に食われたら
元も子もないわ。

男

いいのか。夜更けに歩きまわると、かえって狙われるぞ。

くノ1

大丈夫よ。私たちがついてるもの。

くノ2 平気よ。
男 しょうがねえな。俺が先に行く。その気があったらついてきな。(ゴンに) 悪いな。行くぜ。
ゴン 僕も行く。
男 火のそばにいた方が安心だぜ。
ゴン 行くっ！ ねえ、イキダオレも一緒に連れてっていいだろう。
男 勝手にしな。俺には面倒見きれないからな。
ゴン うん。わかった。

男、霧を切り裂き、月の光を頼りに退場。月の光は一瞬しかもたない。ゴン・少女、あとを追う。追って、3人娘退場。

3 妖斬剣

森の奥。深い霧。
男、登場。続いて、ゴン・少女・3人娘、迷いながら登場。

少女 (ゴンに) ねえ、これ、困ってる？
ゴン これ？ うん……。

少女、高みに昇ってゆく。
男・少女を残して、全員シルエットになる。

男 きりがねえな。(妖斬剣を構え) はたして、この刀に妖術を打ち破るだけの力があるかどうか……。

男、妖斬剣で霧を斬り裂く。
期せずして同時に、少女も呪文で術を破ろうとする。
ドーンという大きな音。妖術が破れる。
2人、シルエットになる。

シルエットの合間から、ヨウ登場。

ヨウ 妖術が破られたわ！

シルエットの合間から、セイ登場。

セイ ヨウ!

ヨウ セイ!

セイ 山姥のウメさんは?

ヨウ まだ見つからない。

セイ バレンタイン・ストーンが危ない!

ヨウ 私たちの手で、人間をくいとめないと!

セイ でも、私たちにできる?

ヨウ 2人で力を合わせれば大丈夫。「一本の割り箸も二本に割れば食べやすい」って

言うじゃない。

ヨウ、シルエットの中に退場。

セイ (少し考えて) 言わない。

セイ、シルエットの中に退場。

男・ゴン・少女・お嬢・くノ1・くノ2。

ゆつくりと月の明かりが射し始める。

少女 よし。霧が晴れた。(地図を出す)

少年 ゴン!

ゴン、呼ばれて少女のそばへ行く。そこは見晴らしがいい。

男 ゴン ウタさん、ここならまわりの様子がよく見える!

男 どれ!

男、ゴンのところへ行く。

くノ1・くノ2、そっと後をついて行く。

男 なるほど。満月の光で山の形がはっきりとわかる。(地図を見ながら) 毘沙門

岳、駒ヶ岳、烏帽子山、あのキラキラと光っているのが明神池か。すると、今はここか……。

くノ1・くノ2、後ろからのぞきこむ。

男 おい、忍者さんよ。

くノ1 私は助さんよ。

くノ2 私は格さんよ。

男 おっと、こいつは失礼。で、あんたたちは何て聞いてやってきたんだ？

くノ1 山姥のウメさんが持っているって。

男 山姥？ 誰に聞いた？

くノ2 ふてえ野郎よ。

男 ふてえ野郎？

くノ1 通りすがりの小娘よ。私たちの芸をタダ見しようとしたの。でも、嘘はついていないと思うわ。

男 山姥か……。すると、やはり、ここかここだな。物の怪ってやつはな、境目や変

わり目に集まりやすいんだ。一つは峠、道が上りから下りにかわる境目だ。もう一つは沼、川と陸との変わり目だ。おそらく山姥はこの沼にいる。その名もズバ

リ、姥が沼だしな。

くノ1・くノ2、お嬢のところに駆け戻る。

くノ2 あいつ、頼りになりますねえ。

お嬢 気をつけな。あいつはただの遊び人じゃないよ。

くノ1 山姥のいる沼ってのは、ここからほんの少し登ったところですよ。水の音をたよりに行けば迷うことはありません。先回りしちゃいましょうか。

お嬢 いいね。が、その前に。

くノ2 は？

お嬢 あの妖斬剣が欲しいわね。山姥を倒して、バレンタイン・ストーンを手に入れるために。

くノ1・くノ2 はい。

男、ゴンに何か説明している。

男 (火薬の筒を渡しながら) どうだ、ゴン。できるか？

ゴン わかんない。でも、やってみる。

男 これができれば、こんな山奥からだって、ふもとへひとつとびだ。物の怪に襲われる心配もねえ。

ゴン すごいね。

男 ああ。こいつに名前をつけよう。ロケットと飛んでく感じだから、ロケットって

ゴン いいね。わかった。

男 よし。まかせたぞ。

男、高みから降りてくる。ゴン・少女、ついてくる。

少女 ……また、霧だ。

突然、不気味な出囃子。『もしもしカメよ』に似ている。

曲に乗って、ヨウ・セイが登場。

ウサギとカメの変装（といっても簡単なお面）をしている。

男・ゴン・少女・3人娘、あつげにとられたまま見送る。

ヨウ・セイ、そのまま退場。

お嬢 （急に思いついて）きゃー、怖い。（と男に抱きつく）

お嬢の目配せで、くノ1・くノ2が刀をすり替える。

男 何だ？ ……わかった。お前、俺に惚れたな。

少女、男に平手打ち。パシッ！

男 何なんだよ。

少女 （ハッとして） ……条件反射。

改めて不気味な出囃子。曲に乗って、ヨウ・セイ登場。
いかにも気づかれようとしている。

ゴン 誰？

ヨウ （止まって）私？

セイ （止まって）私？

ゴン うん。

ヨウ 私たちはウサギよ。

セイ ウサギとカメよ。

ヨウ 私がウサギで。

セイ 私がトカメ。

全員 トカメ？？

ヨウ・セイ ……？（首を傾げる）

ヨウ 私がウサギトで。

セイ 私がかめ。
全員 ウサギト??

ヨウ・セイ ? (首を傾げる)

ヨウ …ウサギ。

ヨウ・セイ 戸。

ヨウ・セイ、戸を開ける。ギイー。

ヨウ・セイ どうぞ。

全員、戸の中に入る。

ヨウ・セイ、戸を閉める。ギイー。

ヨウ・セイ 戸。

セイ カメ。

全員 おー、なるほどなるほど。(と拍手)

ヨウ ひっかかったわね。もうここから出られないわ。

気がつくど、全員戸の中に閉じこめられている。

見えない壁に囲まれている。

セイ 出口はそっちよ。奥へ奥へと歩いて行きなさい。

ヨウ もうバレンタイン・ストーンに手を出さないで。

セイ この森に恐ろしいことを起こさないで。

ヨウ・セイ、不気味な出囃子とともに退場。

ゴン

(出口をのぞいて) この出口はどこへ続いているんだろう。

知らん。俺たちをここから追い出そうとしているのか、どこかにおびき出して食
っちまおうとしているのか。

男、考え込んですわりこみ、キセルで煙草たばこを吸いはじめる。

お嬢、その様子をじっと見つめているが、そのうちフラフラと歩き回り始
める。実は煙草の煙の流れを追っている。

くノ1 どうしたんですか、落ち着きのない。

お嬢 くノ1・くノ2。煙草の煙を見てごらん。あの高さから煙が風に流されていく。

この壁には天井がないんだ。上から出られるよ。

くノ2　でも、出口から出た方が早いんじゃない。
くノ1　物の怪の言うことなんか信じちゃだめよ。それに私たちには妖斬剣がある。
お嬢　他の連中に見つからないうちに、行くよ。
くノ1・くノ2　はい。

くノ1・くノ2、お嬢を踏み台にして、壁を乗り越える。
お嬢には踏み台にするものがない。

お嬢　ちよっと、私はどうすればいいのよ。
くノ1・くノ2　あつ。気がつきませんでした。

男　おい、みんな聞いてるか？　奥の出口をさがそう。無事に出来るかどうか可能性は五分五分だが、ここにいるよりはマシだ。

お嬢　私はごめんだわ。せっかくここで、バレンタイン・ストーンを目の前にして、フリダシからやり直しかもしれないなんて。

男　ゴン。お前は？

ゴン　僕は、（捜しに行くと言おうとするがヨウ・セイの言葉が頭をかすめ）……わかんない。

男　イキダオレの娘さんは？

少女　……（ゴンにしがみつく）

男　無言か？　助さん格さんはどうする？

くノ1・くノ2　お嬢様と一緒に。

男　ちえつ。命を大切にしねえ奴らだ。もう知らん。（ふてくされる）

この間ずっと、お嬢は壁に挑戦している。が、どうしても乗り越えられない。
い。

お嬢　先に行っていないさい。

くノ1・くノ2　でも……。

お嬢　いいから。もし無事だったら、明日の昼、ふもとの明神池で落ち合しましょう。

くノ1・くノ2　はいっ。

くノ1・くノ2、退場。

男　おい、ちりめん問屋のお嬢様よ。そんなにバンタラリンストーンが欲しいか。

お嬢　あたりまえでしょ。こんなに苦労してるんだから。

男　そうか。じゃあしかたねえ、これを使うか。（と刀に手をかける）

お嬢　（あわてて）い、いえ。その刀は使わない方がいいわ。壁を破ることができて
も、さつきみたいに大きな音をたてては、また物の怪に気づかれてしまうわよ。

男 他の方法を考えましょう。
そうか。そうだな、気づかれてしまうか。(刀を収める)

お嬢、ホッとする。

男 ホッと安心するのもいいが、俺たちはまだ物の怪の森の中にいることを忘れるなよ。

お嬢 な、何を言うの。安心なんかしていないわ。

男 いや、一瞬とてもいい表情を見せたんでね、久しぶりだなと思ってね。

お嬢 久しぶり？

男 相変わらず、嘘のつけない奴だな。俺にこの刀を使わせないで、何をたくらんでやがる？

お嬢 相変わらず？

男 いつもそうやって、険しい顔をしているのかい。せつかくの魅力が台無しだ。

お嬢 私のこと勝手に決めないで。あんたは誰？

京都守護職盗賊改メ見習い。

お嬢 名前は？

男 俺を見忘れたか、お嬢。

男、片肌かたはだを脱ぐとかっこいい、ウタさんらしい彫り物。(とこのことを考えたのですが、もっといい案はありますか？)

お嬢 お前は……！

男 そうさ。

お嬢 なぜ、ここに。

男 昔の恋人が盗賊になったって噂を聞いたんだが、あの、お好しで、一途でわがままな性格じゃ、おそらくドジばかり踏んでるに違えねえ。ここは一つ、悪党として箔はくをつけるのに、一役買ってやろうと思ってな。そいつのことだ、間違いない噂のバンタラリンストンを探しに来ると目をつけていたんだ。

お嬢 (微笑みながら) あんた、まさか、その女に未練みれんがあるのかい？

男 バカ言うんじゃないやねえ。未練ってのは、別れた相手を忘れられない時に言うものだ。そいつはな、黙っていなくなっちゃったんだ。別れるんだか別れねえんだか、はっきりしてもらわねえと、落ち着いて他の女を口説くせどくこともできやしねえ。迷惑なんだよ、遊び人のウタさんとしては。

お嬢 そんな生真^{まじめ}面目な遊び人がいるもんか……。

2人、見つめ合う……！ 曲で盛り上げる！ 照明が変わる！
ゴン！ 子どもには刺激が強すぎる！！
一方、そうとは知らない少女、呪文で壁に穴をあけている。
やっとの思いで、小さな穴が開く。ドーンの音。

少女 ギョーン、行こう。

少女 ギョーン （え？今いいところなのに、の思いを込めて）どこに。
バレンタイン・ストーン。（の秘密を教えてあげる。の意味を込めて）
わあー。

少女・ゴン、穴に吸い込まれて消える。

男 どうした、ゴン！ ここから落ちたのか。こいつは物の怪の仕業だな。お嬢さんよ、どうやら昔話をすぎたようだ。助さん格さんを集める！
お嬢 どうして。

男 ギョーンたちのあとを追うんだよ。一人も死なすわけにはいかねえ。足手まといだが、みんなで行くしかないだろう。
お嬢 その必要はないわ。
お嬢 なぜ。

お嬢 あの2人はとつくに、山姥のところに向かっている。この壁は上から出られるのよ。

男 命知らずなことしやがって。お前、自分の仲間にそんな真似させて、よく平気で……。（刀を見て）そうか、そういうことか。

お嬢 そういうこと。私たちは、今は敵味^{てきみかた}方だから。……殴ってもいいのよ。

男 ……俺は女は殴らねえ。だが、無事にふもとに戻ったら、このお返しは仕事でキツチリさせてもらうぜ。

男、穴から消える。

お嬢、あとに続いて消える。

第三場 森の夜

1 姥が沼の恐怖

夜更け。姥が沼の付近。

くノ1・くノ2、恐る恐る、刀を構えながら現れる。

くノ2 助さん。この刀があれば、今度は失敗しないね。

くノ1 そうよ。バレンタイン・ストーンを手に入れて、3人でお頭（かしら）にほめていただくのよ。

くノ2 ご褒美ほうびももらえるわよね。

くノ1 たんまりとね。お金が手に入ったら、もう忍者なんてやらなくていいの。（夢見のように）お嬢様に大きなお屋敷を買っていただくのよ。

くノ2 お嬢様が女主人で、私たちは――。

くノ1 おつきの者1とおつきの者2になるわけね。

くノ2 じゃあ、今みたいにお嬢様のわがままに悩まされることも、なくなるのね？

くノ1 もちろんよ。私たちはくノ1・くノ2じゃなくて、おつきの者1・2になるのよ。……って、今と同じかもしれない。

くノ1・くノ2 （肩をすくめて）あゝあ。

くノ2 そう言えば、お嬢様は無事かしら？

くノ1 あの人は世間知らずだから、何をしでかすかわからないし。

くノ2 どうしよう。戻って見る？

くノ1 ……大丈夫よ、きつと。ナントカは世にはばかるって言うじゃない。私たちがあの人のことを「うつつとうしい」と思っているあいだは、あの人は元気。へたに心配すると早死にしちゃうわ。

くノ2 そうね。お嬢様のことだものね。

くノ1 （ふと気づいて）格さん、水面みなもが光っている。ここが姥が沼ね。

くノ2 キヤツ。（刀を落とす）

くノ1 どうしたの？

くノ2 何かピリツと……。

くノ1 妖斬剣が、物の怪の気配を感じたのかもしれない。

くノ1・くノ2、目で合図をして隠れる。

ヨウ・セイ登場。高みには山姥が、姿を見せる。

セイ また、妖術が破られたわ。

ヨウ 完璧な術だったのに。

山姥 たいした人間どもね。あんなものために、わざわざここまで来るなんて。

ヨウ・セイ ウメさん！

山姥 人間は気がついていないのよ、バレンタイン・ストーンのありかを。

セイ 教えてください。なぜ私たちは、バレンタイン・ストーンを守らなくてはならないのですか？

山姥 あなたたちが？

セイ ええ。私たちが。

山姥 守る？ その必要はないわ。

くノ1、姿を見せて、刀を構える。

くノ1 そう。その必要はないわ。バレンタイン・ストーンは私たちがいただくのよ。

ヨウ そうはさせないわ。

ヨウ、くノ1にとびかかる。くノ1、ひらりとよける。

くノ2、姿を見せて、ヨウを取り押さえる。

くノ2 そうはさせないわ。

くノ1 さあ、ウメさん。バレンタイン・ストーンを出してもらおうかしら。

セイ、くノ1を襲おうと様子をうかがう。

ゴン・少女、横穴から出てくる。

セイ えーいっ！（くノ1にかかってゆく）

ゴン あぶないっ！

ゴン、セイを突き飛ばし、くノ1を助ける。

山姥・ヨウ・セイ、安全なところまで逃げる。

ゴン あんたたちは何者だ。

ヨウ あんたは人間ね。

山姥 山姥の術を甘く見るんじゃないよ。「や・ま・ん・ば、バンババン」

ヨウ・セイ ビバ、ノンノン」

山姥・ヨウ・セイ （民謡の節で）山姥バンバンバン、山姥バンバンバン

全員 （つられて）山姥バンバンバン、ヤマンバンバンバン、また来週」

と手を振っているポーズで、くノ1・くノ2・ゴン・少女は動けなくなる。

セイ やーい、動けない。

ヨウ 思い知ったか。

山姥・ヨウ・セイ、消えるように退場。

少女、急に動きだし、それを追って退場する。

入れ代わりに、男・お嬢が登場する。

お嬢 誰かいる！

男、くノ1・くノ2・ゴンに近づく。

男 心配するな、こいつはつくりものだ。その証拠に、こんなことをしても（くノ1にこんなことをする）こんなことをしても（くノ2にこんなことをする）こんなことをしても（ゴンにこんなことをする）全然動かねえ。

ゴン、男の手に噛みつく。

男 痛え！（顔を見て）お前、ゴンか？

お嬢 こっちは……（顔を見て）くノ1！……じゃない、助さん、格さん。

男 （ゴンに）お前、何遊んでんだ？

お嬢 （くノ1・くノ2に）物の怪に術をかけられたのね。

男 ってことは、さっきの影が物の怪か……。 （刀を手で確かめ）これじゃ安心して山も下りられねえ。（行きかけて）お嬢、ここで待ってろ。ここから動くんじゃねえぞ。

男、物の怪の影（実は少女）のあとを追って退場。

お嬢 （思いついて）そうだ、妖斬剣。これなら、なんとかなるかも。

お嬢、くノ1の手から刀をはずす。

お嬢 まずは試しに。

お嬢、ゴンに切りつける。が、跳ね返される。

お嬢、もう一度、力一杯切りつける。

ドーンという音とともに、お嬢・ゴンとばされ術がとける。

お嬢 こんなに力のいる刀だとは思わなかった。くノ1・くノ2、今助けてあげるわ。

お嬢、くノ1・くノ2に力一杯切りつける。
ドーンという音とともに、3人とばされ術がとける。

くノ1 お嬢様、こっちです。

お嬢・くノ1・くノ2、山姥たちのあとを追って退場。
ゴンは切りつけられた時の恐怖から立ち直れずにいる。
少女、3人を見送り、現れる。

少女 (ゴンに) 山姥のところに行こつ！

ゴン え？ ……。(首を横に振る)

少女 どうしたの？

ゴン 怖かったんだもの。殺されるかもしれないと思ったもの…。(気を落ち着けて) …あの人たちが妖斬剣を持っているってことは、ウタさんは…。いけな
いっ！ イキダオレ、妖斬剣を取り返しに行こう！

少女 私、あの剣、嫌い。

ゴン でも、ウタさんが物の怪にやられちゃう。

少女 行くわ。行くけどね…。

ゴン 急ごう！

ゴン、飛び出してゆく。少女、肩をすくめて後を追う。

2 恐ろしい妖術

ヨウ・セイ、キヤツキヤツと登場。パツと散る。

男、追って登場。

男 待て、物の怪ども。

ヨウ 私たちは妖精よ。

セイ 物の怪どもじゃないわ。

男 どうして、人間に悪さをする？

ヨウ 悪さなんかしていないわ。

セイ 私たちは守っているの。

男 何を？

ヨウ・セイ バレンタイン・ストーンを！

ヨウ なぜバレンタイン・ストーンを狙うの？

セイ この森に恐ろしいことを起こさないで。

ヨウ 人間は恐ろしい。

セイ 人間は恐ろしい。

男 ……。よし、わかった。人間はこの森から出て行く。約束する。だから、さ
つきの3人にかけて術をといてくれ。

ヨウ 信用できないわ。

セイ 人間は信用できないわ。

男 何！（思わず刀に手がかかる）

ヨウ・セイ キャー！

男 いや、たとえ物の怪であっても、俺は女は切らねえ。これでどうだ！

男、何かを投げつける。ヨウ・セイに命中する。

ヨウ・セイ （口々に）うわゝ。（立ち直って）何、これ？

投げつけられたものは、女性の下着になっていたりする。

ヨウ・セイ （はやしたてる）こんなものを持ち歩いているの？ やーい、下着泥棒。

男 おかしい。魔除けのお札を投げたはずなのに。

セイ 変わり身の妖術よ。

ヨウ・セイ、キャツキャツと消える。

男、あわてて後を追って退場。

3 妖術破れる

山姥、高みに姿を現す。

くノ1・くノ2 お嬢が、それを捜して登場。

くノ2 いたわ。あそこよ。

山姥 （横目でチラリと見て）しつこい人間どもね。

くノ1 バレンタイン・ストーンのありかを言いな。

お嬢 いやだとは言わせない。こつちには妖斬剣があるのよ。

山姥 あなたにそれが使いこなせるかしら。

お嬢 私には無理だとても？

山姥 振り回すだけの人間には、その刀は使えない。

お嬢 えいっ！（切りつける）

山姥 （平気で）ホホホホホ。「や・ま・ん・ば、バンバン」

くノ1・くノ2 ビバ、ノンノン（すぐ術にかかってしまう）山姥バンバンバン、山姥バ
ンバンバン、山姥バンバンバン

お嬢、なんとか妖斬剣で防いでいるが、最後には術にかか
うになる。 りそ

ゴン登場。様子に気がついて、山姥の背後にまわる。

ゴン えい。(ポカリと山姥を叩く)
山姥 いたいっ。

と、術がとける。ゴン、お嬢たちに駆け寄る。

ゴン 山姥、破れたり！ この術の弱点は、時間がかかりすぎるからだ！
くノ1・くノ2 よくやった、ゴン！

お嬢 (山姥に) さあ、バレンタイン・ストーンはどこにある？

山姥 そいつは言えないね。

くノ1 どこかに隠してあるんだろう。

山姥 隠しているわけじゃない。

くノ2 すると、そこにあるのね？

山姥 ここにはないわ。

くノ1 じゃあ、どこにあるの。

山姥 そいつは言えないね。

お嬢 まさか、この沼の底じゃないでしょうね。

ヨウ・セイ登場。

ヨウ だから人間って、バツカなのよね。

セイ あんな大切なもの、そんな手の届かないところにしまうはずないじゃない。

お嬢 (くノ1・くノ2に) やっておしまい。

お嬢・くノ1・くノ2、山姥に駆け寄るが、それより早く山姥はふっと消
える。

ヨウ・セイも消えようとする。が、セイはつかまる。

くノ2 あなた、どこかで会ったことない？

セイ ごめんなさい。もうしません。

くノ2 もうしません、ってね。

セイ ともかく離して。

くノ2 ほら。(放してやる)

セイ (態度を変えて) へへん。ベーツ。バイバイ。

と逃げようとして、くノ1につかまってしまおう。

くノ1 あんた、恩返しはどうしたのよ。

セイ え？（顔を見て）あっ、あなたたちはあの時の……。

（まにげん）
真人間にはなっていないみたいね。（詰め寄る）

くノ1 もう一度だけ、チャンスをあげるわ。

セイ は、はい……。

くノ1 バレンタイン・ストーンはどこにあるの？

セイ そ、それは……。

お嬢 恩返しをするつもりがないのねっ！

セイ え？（くノ1・くノ2に）それを言えば、恩返しになるんですか？

くノ1 そうよ。

くノ2 そうよ。

セイ バレンタイン・ストーンはあの子！

と指さした先に、一瞬少女の姿が見える。

くノ2 あの子が持っているのね。

セイ ……でも、悪い人には言っちゃダメですよ。

くノ1 わかっているわ。

くノ1・くノ2、お嬢のところへ駆け寄る。

セイは真人間になって大満足。

ヨウ登場。セイに駆け寄る。

ヨウ バカ。

セイ バカじゃないもん。私は真人間よ。恩返しもしたし。

ヨウ もともと人間じゃないのよ。真人間にはなれないの。

セイ （驚いて）えー、そうなのー。私って、かわいそう……。

セイ、ヨウに引きずられるようにして、2人退場。

お嬢 あの小娘が持っているのね。

お嬢・くノ1・くノ2、上手に去ろうとする。

ゴン （行く手をさえぎって）待って！ イキダオレからバレンタイン・ストーンを取らないで。

お嬢 おや、ゴン。
ゴンは命の恩人だろう。さっき、山姥の術から助けてやったじゃないか。でも私たち、真人間じゃないから恩返ししないの。
ゴン (笛を出して) どうしても行くんなら、この笛を吹いちゃうぞ。吹けば？
くノ2 本当に吹いちゃうぞ。
ゴン 好きにすれば？
くノ1 好きじゃないけど吹いちゃうからな。いいな。
ゴン

ゴン、笛を吹く。ピポピポピ。
スプレーを取り出し、自分に吹きつける。

ゴン じゃ、達者だね。(くノ1に笛を投げる)
くノ2 何、この笛は？
ゴンは、物の怪を呼び寄せる呼笛よびこなんだ。じゃあね。
3人娘 ちよっと待ちなさい！(と踏みだす)
ゴン あつ、足元に物の怪！
3人娘 おつとお！(とひるむ)

ゴン、3人の足元に境界線を引く。

くノ1 あんた、自分で何しかしたか、わかってんの？
ゴン 子どもだからわかんない。
お嬢 ここに物の怪が集まってきちゃうのよ。
くノ2 あんただって、バリバリ食べられちゃうわよ。
ゴン 僕は大丈夫。物の怪よけスプレーをかけたから。
3人娘 それをよこしなさい！
ゴン これ？ はい。(くノ2に投げる) 子ども用だから、大人には効かないかもね。
お嬢 (あわてて) 大人用のスプレーは？
ゴン ないよ。じゃあ、これは？(縄を床に引く) 『らくらく魔方阵』まほうじんこの中にいると、とりあえず物の怪には見えなくなるよ。

3人、あわてて魔方阵の中に飛び込む。

くノ1 本当に見えないんでしょうね。
お嬢 狭いわね。
くノ2 安心できないわ。

ゴン まだ見えるなあ。
3人娘 ゴン！（と、つい踏みだす）
ゴン あっ、足元に物の怪！
3人娘 おっとお！（と魔方阵に戻る）
ゴン じゃあ、これは？『物の怪封じの笛』（投げて渡す）
くノ2 あるんじゃない、こういう物が。
くノ1 （吹いてみる）鳴らないわ。
ゴン ほら。これも。（吹き口の部分を投げる）

お嬢、あわてて吹き口を受け取る。その拍子に手を離して刀を取り落とすが、気づかない。

ゴン、すかさずその刀を拾う。

お嬢 マウスピースね。

くノ1 （つけて吹くと鳴る。ピーロロロ）鳴った！物の怪退散！たいさん

くノ2 これで本当に、大丈夫なのね。

ゴン ううん、嘘だよん。最初から全部嘘さ。妖斬剣はもらって行くよ！

3人娘 お待ち！（と、踏みだす）

ゴン あっ、足元に……！

3人娘 おっとお！（とひるむ）しまった。

ゴン、走って退場。

お嬢・くノ1・くノ2、あわてて追いかけて退場。

4 三人娘の裏切り

男登場。ヨウ・セイを捜している。そのまま闇に消える。

ゴン登場。3人組から逃げてくる。

近くの草むらに妖斬剣を隠すと、そのまま走って退場。

3人娘登場。ゴンの走り去る姿を見つけたらしい。

くノ1・くノ2は、お嬢と別れて退場。

お嬢は、ニヤリと笑ってゴンの後を追う。

くノ1・くノ2、少女を捜して登場。
少女、高みに現れる。くノ1・くノ2、それに気づく。

少女 なぜバレンタイン・ストーンを狙うの？

くノ1 その石が高く売れるからよ。

くノ2 そうよ。

少女 バレンタイン・ストーンには不思議な力がたくさんある。なぜ、その力を使おうと思わないの？

くノ1 私たちは、お頭かしらの指令に従っているの。

くノ2 お頭がどんな人か知らないけど。

くノ1 お頭の指令はお嬢様のところに届くのよ。

くノ2 どんな山奥でも、森の中でも、突然お嬢様のところに届くのよ。

くノ1 すごいでしょ。

少女 へんじゃない？

くノ2 やっぱり、そう思う？

少女 うん。

くノ2 でも、私たちはかまわないの。その指令が嘘でも、お嬢様と仕事するのが楽しいから。

くノ1 お嬢様の願いがかなうことが、私たちの願いよ。

少女 (フツと微笑んで) :・あなたたちにも、バレンタイン・ストーンのことを知る資格があるのかもしれない。でも、バレンタイン・ストーンは何一つ、願いをかなえてはくれないわ。

くノ2 どういうこと？

少女 バレンタイン・ストーンは、愛する心のこと。石なんてないのよ。

くノ1・くノ2 (目を見合わせて) だまされないわ！ (刀を構える)

くノ1 そんな話に惑わされると思うの。

くノ2 半分ぐらいは信じるけどね。

少女 (驚いて) 愛する心を手に入れるために、刃物を向けるの？

くノ2 愛には犠牲はつきものよ。

くノ1 大人の愛は傷つけあうものなの。

少女 :・だから、人間の考えることはわからない。

男、飛び込んで来る。

男 待て！ イキダオレに手を出すな！

お嬢、ゴンに短刀をつきつけて登場。

お嬢 いいえ。バレンタイン・ストーンはいただくわ。

少女 ゴン……。

男 お嬢、汚ねえぞ。

お嬢 一度狙った獲物は逃がさないのが、私たちのモットーよ。

くノ1 今まで守られたことはないけどね。

くノ2 一度もね。

ゴン イキダオレ、ごめん！

少女、ゆつくりと両手を差し出す。そこには2つの石。

少女 光る石と、琥珀色の石。

お嬢 どっちが本物？

少女 どちらも。

お嬢 光るほうをもらうわ。

くノ2が石を受け取る。

くノ1 これがバレンタイン・ストーンね。

くノ2 これなら高く売れるわ。

お嬢 さあ、ウタさん。その妖斬剣もお渡し。

男 はあ？これを？

お嬢 そうよ。

男 なぜ。

くノ1 この物の怪の森から、無事に出て行きたいの。

少女 それがあなたたちの願いね。

男 (投げる)だが、そいつは妖斬剣じゃねえ。本物はお前たちが持つてるんじゃないのか。

お嬢 え？(確かめて)本当だ。

くノ1 これじゃ物の怪に襲われても防げない。

くノ2 ここから出られないかもしれないの？

少女 わかった。願いをかなえてあげる。(呪文を唱え始める)

地鳴りのような音。お嬢の体が揺れる。

くノ1・くノ2 お嬢様っ！(すがりつく)

ヨウ・セイ、少女のそばに登場。

ヨウ 光る石は願ひ石。あなたの願ひを一つだけかなえてくれる。売ってお金にするもよし、誰かに心を伝えるもよし。
セイ あなたたちの願ひは、ここから無事に出ることね。
お嬢 お待ち！ 願ひは他にたくさんあるのよ。そんな、もったいな…（ゴン、お嬢の手に噛みつく）いてえ！

ゴン、放り出される。
破裂するような音。お嬢・くノ1・くノ2はヒュンヒュンヒュンと飛んでゆく。

男 お嬢、どこへ行く気だ！ この京都守護職盗賊改メ見習いから逃げられると思っ
ているのか！ 地の果てまでも追ってやる。はっきり白黒つけるまではな、別れの言葉を聞くまではな！

3人の姿が見えなくなる。

男 （後を追おうとして）しまった、妖斬剣が…。

ゴン、草の中から妖斬剣を拾いあげる。

ゴン ここだよ、ウタさん。（投げて渡す）
男 ありがてえ。

ヨウ・セイ、男の行く手をさえぎる。

ヨウ あなたにもバレンタイン・ストーンは渡せない。

男 俺はそんな石には、何の興味もない。

セイ 人間は信用できないわ。

男 この森から出してもらえないんじや、しかたねえな。

立ち回り。男は、やけに落ち着いている。

ヨウ・セイ、キヤツキヤツと逃げ回る。

その間にゴンは、少女を連れて消える。

山姥登場。高みから、くもの糸を投げる。男にからまる。

ヨウ なぜ、私たちの森を荒らすの？

セイ 人間は恐ろしい。

男 逆じゃねえのか。物の怪たちが人間を襲うからだろ。

ヨウ 人間は嘘つきだわ。
セイ 人間は信用できないわ。

男、ゆつくりと妖斬剣をかまえる。

男 妖・斬・剣、遊び人殺法（さっぽう）！

刀がピクリと動いたように見える。目にも止まらぬ速さで
ヨウ・セイ・山姥の3人が倒される。

男 峰打ちだ。

ヨウ・セイ・山姥、消える。

ゴン・少女、ロケットを抱えて高みに現れる。

ゴン （縄を垂らして）ウタさーん、ロケット完成だ。この縄につかまって。
ゴン。よくやった。（縄につかまる）
ふもとの、あの明神池に飛べばいいんだね。
おう。

少年 だけど水は冷たいよ。
少年 それくらい我慢しろ。
少年 わかった。行くよ。

点火。ドドドドッ。ロケットは順調に飛び出す。

勝利のひとつとき。

（思い出して）バンタラリンストーンは忘れてないだろうな。

（トボケて）さあ。

少年 何、言いだすんだ。
少年 忘れてきたかも。

少年 ウタさん。もういいよ。僕はバレンタイン・ストーンなんか知らない。
少年 だけど、お前はそのために、ここまで苦労してきたんじゃないか。
少年 もういらぬ、あんな石いるものか。怖かったんだ。何度も死にそうになったんだ。人間も、物の怪たちも、誰も見たことのない石のために……！
少年 わかったよ。
少女 ……

男 お嬢には逃げられるし、とんだムダ足だったぜ。
少女 雲行きがへん！

突然の落雷。

男 墜落だあ！

ロケットは墜落し、ゴン・少女はどこかに消える。

男、放り出される。

妖怪が姿を現す。

長老 このまま帰すわけにはいかない。

男 お前の仕業か。

長老 そのとおり。

男と妖怪の立ち回り。その実態は、妖怪の一人立ち回り。男はただ見ているほかに手はない。

長老 ほほう。わしの術を、ここまでのぐとはな。

男 ここまでのぐ、って、あんた全然戦ってないじゃない。

長老 よく見破ったな。

男 最初と最後しか出てこないし。

長老 そこまでバレていたのか。ハッハッハ……。 (消えかける)

男 待て！

長老 ハッハッハ……。待たない。 (消える)

男 …… そうだ。 (おもむるに) 僕には美人の妹がいるっ！

妖怪、急に戻ってくる。

長老 なになに？ もう一度言って。

男 ぼ・く・に・は・び……。 えいっ！ (斬りつける)

長老 おおっと。(跳んで逃げる) わしの性格を見抜くとはたいした男だ。それだけの

男 実力がありながら、なぜバレンタイン・ストーンにこだわるのだ？

長老 俺は、石には興味はない。

男 では、なぜ物の怪の森に踏みこんだ？ 物の怪がお前に、何をしたと言うのだ。

長老 べつに物の怪に恨みがあるわけじゃねえ。

男 人間は信用できん。特に、妖斬剣を振りかざしてモノを言うような奴はな。

長老 何だと！

長老 人間は嘘つきだ。

男 長 男
老 老
：…この刀のことか？　これが怖くて、お前たちは人間を襲うのか。
そうだ…。
：…ならば、こいつは返す。俺は物の怪が怖くて、いつもこいつを持ち歩いてい
た。

男、妖怪の足元に刀を投げる。

長 男 長 男 長 男
老 老 老 老 老 老
いいのか？　これがなければ、お前など一口で食い殺すことができる。
人間は嘘つきだ。しかし、心は嘘をつかん！
（刀を拾いあげながら）まっすぐ行くがいい。そうすればこの森から出てゆけ
る。（去りかける）
待て！　ゴンはどこだ？　あの娘さんは？
まっすぐ行くがいい。

妖怪、消える。

男
………！

男、走り去る。

第四場 森の夜明け

1 バレンタイン・ストーン

夜明けまで、間もない。森の出口近く。
ゴン、少女に支えられて登場。

ゴン　　いてて、いて：：。

少女　　大丈夫、ゴン？

ゴン　　大丈夫。

少女　　もうすぐ、この先で森を出るわ。

ゴン　　よかった。ウタさんは平気かな？

少女　　どうしてウタさんばかり、気にするの？

ゴン　　だってウタさんってバカなんだから。人の言うことをすぐ信じちゃうんだ。それに無鉄砲だし。物の怪にだまされちゃうかもしれないだろ、僕がついていなくちゃダメなんだ。

物の怪は人をだまさないよ。

なら、平気だな、きっと。

ね、私は？

君は大丈夫。しつかり者だもの。

（ムツとして）私、あんたが思っているほどしつかり者じゃないよ。

どうしたの？

私のこと、勝手に決めないでよ。何も知らないくせに。

どうしたんだ、急に？

私のことなんか、何も聞いてくれないじゃない。

：：うーんと、たとえば？

私の本当の名前。

君はイキダオレ。僕は気に入っているよ。

誕生日とか。

年には興味ない。

生い立ちとか。

過去は振り返らない主義だもん。

好きなもの。

これ、好きでしょ。（キャンディを出す）

これも好きだけど。

大きいほうが好きでしょ。（大きいキャンディを渡す）

うん。

小さいのも好きでしょ。（小さいキャンディも渡す）

（ゴンを見て微笑んで）うん。

少女

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン

少女

ゴン　　そういう性格でしょ。
少女　　うん……。まあね。
ゴン　　そういうこと。

少女　　どういうこと？

ゴン　　今の君は、君さ。見ていればどんな子かわかるもの。過去の君にも、未来の君にも、今は興味ない。

少女　　（苦笑いして）やっぱりね。子どもは今しか見ない。

ゴン　　子どもだもん。

少女　　楽しかった。元気でね。（去りかける）

ゴン　　どこ行くの？　怒ったの？

少女　　ううん。そうだ、これあげる。

少女、ゴンに茶色の石を渡す。

ゴン　　バレンタイン・ストーン？

少女　　ううん、違うわ。これは「チョコレイト」っていう南蛮の食べ物。苦くて甘くて、それでいて忘れられない味をしている。ただ、それだけのもの。

ゴン　　ふーん。

少女　　：・私ね、あんたを助けてあげたかったの。

ゴン　　え？

少女　　こんな山奥に一人で来る子どもは、不幸せに決まっているって思ったから。

ゴン　　うん……。まあね……。　（と自分の過去を少し振り返る）

少女　　でも、あんたはきつと大丈夫。

ゴン　　僕のこと、勝手に決めないで。（ふと気になって）……君は誰？

少女　　たとえば、私がバレンタイン・ストーンなの。誰も犠牲にしない愛を伝えるための。心配なのは、あとはウタさんね……。

ゴン　　ゴンッ。ゴンッ。

少女　　ウタさんだ。

2人、声の方を振り向く。少女、フツと微笑んで消える。

男登場。

男　　おい、ゴン、無事だったか。

ゴン　　ウタさんこそ。（気がついて）あれ？　イキダオレ、イキダオレ！

男　　誰かいたのか？

ゴン　　誰かって……。……。？……。いたよね？

男　　（首を横に振る）

ゴン　　でも、これ……。　（茶色の石を見せる）

男　　珍しい木の実だな。

ゴン
……。

ゴン、茶色の石（チョコレート）をかじってみる。

ゴン
男
にがーい。
何でも食うからだよ。

ゴン、それでもチョコレートのを気に入っている。
残りを口のなかに放りこむ。苦くて、やがて甘くなる。

ゴン
（つぶやくように）おいしい……。

顔がほころんでくる自分に気づく。

ゴン
へへっ。（てれて笑う）

男
さあ、空も白んできたしな。俺はお嬢たちを追って、すぐに行かなきゃなんねえ。お前は どうする。

ゴン
ウタさんについて行く。

男
俺についてきてもしかたねえだろ。自分で決めな。

ゴン
ウタさんが心配だから、ついてってやる。

男
子連れの遊び人なんか、いないんだよ。

ゴン
そうだ、僕、ウタさんの子分になる。

男
俺は、自分は持たない主義だ。

ゴン
それなら僕が、親分になる。

男
バカヤロ。じゃあ、俺の大切な相棒として、一緒に来るか？

ゴン
?! ……うん！（心配になって）……本当？

男
嘘だよ。あばよっ。

男、花道へ走ってゆく。

ゴン
男
ウタさん！

男
勝手にしな！

ゴン
うん！（とびきりの笑顔で）勝手にしてやらあ！ ウタさーん！

ゴン、花道へ走ってゆく。2人退場。

2 夜明けの物の怪たち

陰からのぞいていた物の怪たち、どっと飛びだす。ワイワイ。

セイ ほら、あそこを走って行く。
ヨウ 結構いいコンビじゃない。
長老 わしの思ったとおりだ。
セイ あれっ。カイチョウ、本当に思っていました？
山姥 物の怪は過去を振り返らないのよ。
ヨウ まるで子どもね。
少女 (あたりを見回し) さすが小山姥のひかるさん、すてきな光ね。

みんな、一斉に少女を見る。！？

ヨウ !? なんて、あんたがここにいるのよ。
セイ !? 一緒に行けばよかったのに。
少女 (強がって) 私は愛の心だもの。姿が見えるのは、この森にいる間だけ。一緒に
ヨウ 行って、消えちゃうんじゃないじゃない。
セイ (理解して) なるほどね。
セイ (理解して) いろいろあるわけね。
少女 ねえ。森の出口まで見送りに行こうよ。
山姥 いいわね。
全員 行こう!

物の怪たち、消える。

3 新しい旅立ち

お嬢登場。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ一、くノ一はいますか？

くノ1登場。

くノ1 はいっ、ここに。
お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ二、くノ二はいますか？

くノ2登場。

くノ2 はいっ、ここに。

お嬢 (パンパンと手を叩く) くノ三、くノ三は…。

くノ1・くノ2 いませんっ！

お嬢 ……。さて、バレンタイン・ストーンは失敗に終わりました。お頭からの次の指令は…。

くノ1 ホワイトデー・ストーンじゃないでしょうね。

くノ2 あれは男から女に贈るものですよ。

お嬢 わかっているわよ。(くノ1・くノ2を叩いて) ぶつよ。

くノ1・くノ2 もうぶってるくせに。

お嬢 次の目標は、一一ひなまつりストーンよ！

くノ1・くノ2、思わずコケる。

あちこちからみんなが現れて、フラッシュモブのように訳の判らないままダンスタイム。

一一一 幕 一一一

(上演時間 約1時間30分)

上演記録

「バレンタイン・ストーンを捜せ！」

於 初演 一九九二年一月二五日・二六日
六本木 アトリエ・フォンテーヌ

出演

ゴン 如月七生
男 市川雅之
少女 木田朋子

お嬢 天海亜樹
くノ1 いちもとさとる
くノ2 榎木有羽

長老 山住健二
ヨウ 水無月恵
セイイ 日暮ちひろ

裏方

山姥 すぎき 栄みこ
小山姥 小山内三保子
踊る物の怪 西谷利恵子
歌う物の怪 南澤大介

演出 高橋広間
音出 中村けんいち
演出 南澤大介

演出 原口高史
演出 東口高史
演出 小山内三保子

照明 小林朝彦
振付 エイマンタ

撮影 (「エイ」は魚へんに西早)

宣伝美術 武藤剛彦
衣装 山本ひとし

協力 西谷利恵子
制作 B S V M U S I C
劇団ぞんぞん

オリジナル曲

作曲・編曲・演奏・歌 北森小雪
作曲・編曲・演奏・歌 南澤大介

あらすじ

戦国時代の頃。南蛮人たちが新しいものを次々と持ちこみ、世の中がものすごい勢いで変わってゆく時代である。だが、形をかえてしたたかに生きてゆくものたちもいるわけだ。愛する心。それも、そのひとつだろう。

陽気に歌い踊る物の怪たちの森。そこに人間たちが踏み込んでくる。少年ゴンスケと、彼につきまとわれている遊び人のウタさんの二人。そして、お嬢と女忍者たちの悪者三人組。どちらも狙いは「バレンタイン・ストーン」である。一方、それを阻もうと森の物の怪たちが対抗する。その妖術は、人間の目にはまるでお笑いに見えたりもする。もともと「バレンタイン・ストーン」が何であるか、誰も知ってはいない。森の中で行き倒れていた謎の少女も加わり、笑いが笑いを呼ぶ三つ巴の争いの夜が過ぎてゆく。

夜が明けた時、少年ゴンスケの手の中には、ほろ苦くて甘い味のする茶色の木の実が残されていた。

上演に際してのお願い

本作品の上演をご希望の方は、(1) 上演団体名、(2) 公演予定日、(3) 公演場所を「ぞんぞんプロデュース」(zonzon.produce@gmail.com) までご連絡ください。非営利の団体(学校や職場の演劇部や演劇サークル、非営利の社会人劇団など)は上演料は無料です。原作のクレジット表示をしてください。各団体の事情に合わせて内容を改変していただいても構いません。

営利団体の方は、ぞんぞんプロデュースまでご相談ください。